

東日本大震災から十年

二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災から今年で十年となりました。多くの方が地震と津波で亡くなられ、原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた方もたくさん居られます。十年の節目ということ、テレビや新聞でも連日被災地の様子が報道され、防潮堤や道路など、インフラの整備が進んでいると様子を見た矢先、再び大きな地震が発生し津波注意報も発令されました。さいわい大きな被害はなかったようですが、一〇年前の記憶から、多くの人が高台に避難されました。

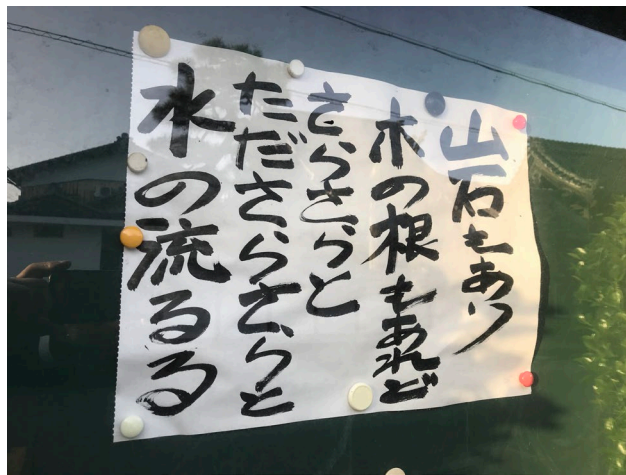
ハード面の復興は進んでいますが、親しい人を失った悲しみや、住み慣れた土地を放棄しな

御和讃をいただく

南無阿弥陀仏を称ふれば  
この世の利益きはもなし  
流転輪廻の罪消えて  
定業中天のぞこりぬ

現世利益和讃

ければならない苦しみは、いまだに消えていないのだと思います。復興五輪と言われていますが、オリンピックで復興はできません。東北だけでなく、南海地震など西日本でも大きな地震が予想されています。せめて、東日本大震災の記憶と経験をとどめ、一人ひとりが日頃から心構えをしておきましょう。  
(住職)



浄土真宗ではこの世での富貴

や禍福・延命を祈ることはしませんが、人々の幸せを願う気持ちからは同じで、親鸞聖人も苦しみから苦しみにと輪廻する人々の姿を悲しんでこの歌を作られたのです

覚浄寺総会

4月17日(土)  
19時30分~20時30分

前期経常費 15,000 持参下さい。  
新型肺炎の状況により、変更となる場合があります。

総会のお願い

右記にご案内の通り、覚浄寺門徒総会を開催します。新型コロナウイルス感染症予防のため、本堂の換気をおこない、短時間にて開催する予定です。また入堂時には、マスク着用、手指消毒、検温にご協力をお願いします。体調の悪い方や発熱のある方は、無理をせず、出席をご遠慮ください。

総会議題(予定)

- 一、年間予定について
- 二、会計決算報告・予算案
- 三、役員改選について

ご紹介

●レインボー念珠

レインボーは性の多様性を表わすシンボルです。「LGBTなどの性的少数者を差別しません、一人ひとり違っていいことを理解します」という意思表示になります。千二百円と千四百円のものがあります。ご希望の方は住職までお問い合わせ下さい。(住職)



●携行本尊

ご本山では「阿弥陀さまが御一緒」をコンセプトに携行本尊が制定され、今年四月一日から交付されます。名刺サイズで冥加金は一万円と、少しお高いですが、離れて暮らす家族、入院先などへの携行にいかがですか。(老僧)



# 清 浄 光

覚浄寺だより

絶景！お寺めぐり(ワットアルン)

今回は、30年以上前に、住職が大学の卒業旅行で訪れたタイのバンコクにあるワットアルンというお寺を紹介します。大きなリュックを背負い、一人旅の心細さと高揚感が入り混じった気持ちで到着した熱帯のバンコク。クーラーのない怪しい安ホテルにチェックインし、散歩に出かけました。市場を通り抜ける大きなチャオプラヤ川の向う岸にそびえるピラミッドのような塔が見えました。それが三島由紀夫の小説で「暁の寺」として有名なワットアルンでした。渡し舟で対岸に渡り、急勾配の階段を恐る恐る登っていくと、熱帯とは思えない涼しい風が川から吹いてきます。街を見渡しながらか、いつまでも滞在したい感動的な瞬間でした。今はコロナで無理ですが、またいつか訪れたい場所です。住職の青春の思い出。(住職)



四月(卯月)入学式

今日からは

楽しくうれしい

一年生



卓明

暮らしの中の仏教語

『床の間』

昔の家はもちろん今風のも床の間は日本の家では象徴的に造られています。これが始まったのは室町時代からでといわれています。はじめは、壁に仏画を掛けてその前に板を置いてその上にお花、蜀台、香炉などを置く、つまりお仏壇だったのです。

それが江戸時代になってお仏壇が別に造られると今のような、床の間となったのです、

その後、中国から山水画や人物画が伝わるとそれを掛け、また華道や茶の湯が盛んになると床の間には、きれいな花や茶道具などを飾って生活を楽しむようになってきました。

ところで、ついにつかりすると神聖な空間であるはずの床の間が便利な物置となてはいませんか？

春らんまん

老僧雑感

「寒さ暑さも彼岸まで」といわれる季節も過ぎ、いよいよ桜の季節となり、しかも今年は例年になく開花が早まり各地で満開の便りも。

でも、新型コロナが猛威を振う中ではおちおち花身など楽しむ子とできません。

そこで、せめて平安時代の人々が花を愛でた心を味会おうと、百人一首を取り出してみました。皆さんの知っている歌も有るでしょう。

小野小町

花の色は移りにけりないたづらに

わが身世にふる眺めせしまに

紀友則

久方の光のどけき春の日に

しづ心なく花の散るらん

紀貫之

人はいさ心も知らず古里は

花ぞ昔の香においける

大僧正行尊

もろともにあはれと思へ山桜

花よりほかに知る人もなし

先中納言匡房

高砂の尾上の桜咲きにけり

外山の霞たたずもあらなん

仏教詩人尾田聡平さん

つきぬけていく声

おじいちゃんの声

お父ちゃんと

お母ちゃんの

心をつきぬけて

僕の胸にとどいた

受けついだ血の中に

こめられている願いが

不思議に

一直線に流れていく

僕のいのちの

重たさよ。

